

水産多面的機能に係る

教育・学習活動のすすめ

2021 年度版



はじめに

現在、水産多面的機能発揮対策事業において、地元小学生等を対象に体験学習会などを積極的に実施する組織が全体の約3割認められています。こうした取り組みは、地域住民の環境や水産資源に対する興味の喚起や、その保全への理解・増進につながっています。また、このような取り組みを行うことによって、地元マスコミの取材が増え、新聞等に掲載されるなど、広く一般に組織の取り組みが周知されています。

本冊子は、当事業において、より多くの組織が活動メニューの「多面的機能の理解・増進を図る取組」を進めることを目的に、作成しました。また、本冊子は、多くの組織が取り組んでいる教育・学習活動の進め方について、簡潔に整理しました。さらに詳しく教育・学習活動のプログラム案や教材のつくり方（見本）が知りたい場合は、当事業のWebサイト「ひとうみ.jp」の資料室に参考となる資料やその活用の方法を紹介していますので、是非ご確認下さい。

（『ひとうみ.jp』 <https://hitoumi.jp>）

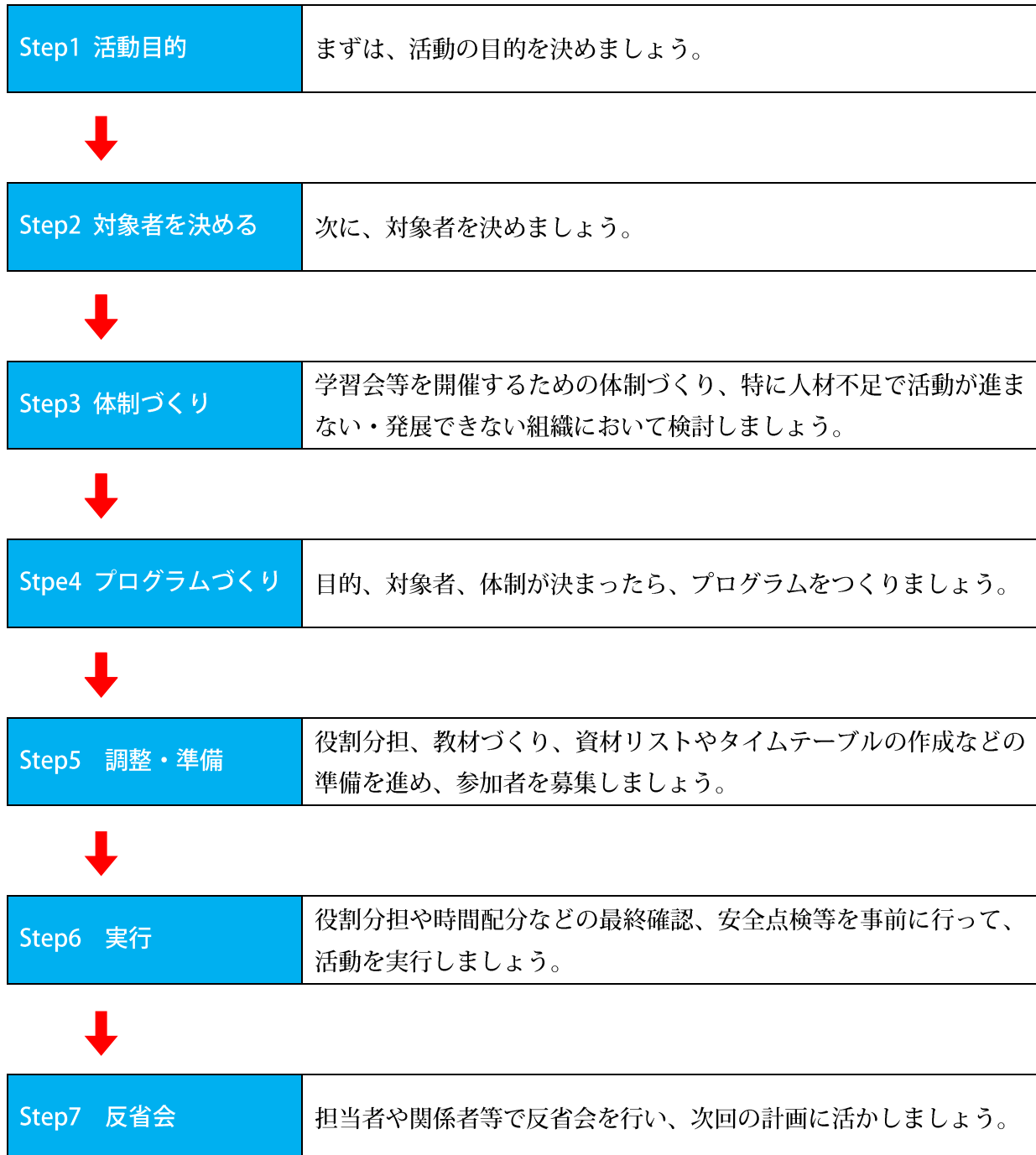
本冊子やWebサイト「ひとうみ.jp」の資料を参考に、多くの活動組織において積極的に体験学習会などが開催され、多くの子どもやその保護者などに環境や水産資源、またその保全への理解が深まることを期待します。

令和4年3月

水産庁漁港漁場整備部計画課

教育・学習活動の進め方

教育・学習活動は、以下の流れで進めます。



Step1. 活動の目的を決めよう！

活動の目的(ねらい)を決めることは、対象者やプログラム内容を検討するためにも必要です。まずは、誰に、何を知って欲しいのか、何を伝えたいのか、活動を行う目的を検討しましょう。

目的を決める

学習会等を開催するにあたっては、その目的がないと、自分たちの「ねらい」が対象者に伝わりません。また、活動の目的を持つことで、対象者を絞り込めたり、プログラムの内容を具体的に検討したりすることができます。

目的は、日頃抱いている願いや思いから生まれます。あまり難しく考えずに、現在思っていることを整理し、目的を決めましょう。

具体的な目的を考える

具体的な目的をたてると、プログラムを的確に作成することができます。また、それにより、対象者にも自分たちの「ねらい」がよく伝わります。

具体的な目的は、一つでも良いし、複数あっても良いと思います。組織のみんなで話し合い、さまざまな「ねらい」を出し合い、プログラムづくりに反映させましょう。

藻場の大切さやそこで育まれる魚介類の美味しさを知って欲しい！

潮干狩りの楽しさ、それを育む環境の大切さを知って欲しい！

ゴミや不法投棄の実態やその影響を知って欲しい！

保全活動の大切さ、楽しさを知ってもらい、次世代に引き継ぎたい！



Topic1 自然の「面白さ」や「大切さ」を子どもたちやその親に知ってもらいたい

京都市北西部の京北地域を流れる上桂川(かみかつらがわ)の流域では少子・高齢化が進行し、山林の荒廃など流域環境の悪化が懸念されている。また、河川や山林環境を持続すべく、次世代の子どもたちやその保護者への興味喚起も大きな課題となっている。

そこで、「上桂川を守る会」では、流域や都市部の子どもや保護者を対象に、上桂川の「面白さ」や「大切さ」を知ってもらい、その「保全への関心を喚起」することを目的に「川辺の子供教室」を開催している。

この教室では、“川遊びガサガサ体験”、“釣り体験”、“アマゴ発眼放流”などの体験プログラムを通じて、川や生き物に触れ、その「面白さ」を知ってもらい、「自然の大切さ」や「保全の大切さ」について伝え・考えてもらうことにしている。



Step2. 対象者を決めよう！

活動の目的（ねらい）が決まったら、誰にそれを伝えたいのか、また自分たちのねらいを効果的に伝えることができる対象は誰なのか考え、決めましょう。

『誰に伝えたい』か決める

対象者を決めずに学習会等を開催すると、その内容が難しかったり、押しつけによる一方的な活動になったりする可能性があります。自分たちの「ねらい」を誰に伝えたいのか、対象者を決めましょう。また、学習会等のプログラムを通じて、その「ねらい」を効果的に伝える・実行できる対象が誰なのか。加えて、自分たちの能力や体制を踏まえて、対象者を絞りこみましょう。



藻場の大切さやそこで育まれる魚介類の美味しさを知って欲しい！

藻場は、海中の中の生き物で、実際海の中を見てもらうような活動ならば、危険も伴うし、小学校高学年以上が良いと思う！



潮干狩りの楽しさ、それを育む環境の大切さを伝えたい！

潮干狩りは幼児から大人まで楽しめる。小学生や保育園児のいる家庭を対象に、保護者と子どもに参加してもらい、干潟の大切さも伝えよう！



ゴミや不法投棄の実態やその影響を知って欲しい！

ゴミ問題は、流域の住民みんなに知って欲しい。予算や協力者もいるし、高齢者から子どもまで幅広い世代を集めて、クリーン作戦をやろう！



保全活動の大切さ、楽しさを知ってもらい、次世代に引き継ぎたい！

自分たちの保全活動を体験してもらうには、ある程度の体力や技術が必要だから、高校生や大学生を対象に活動を行い、ついでに技術を継承しよう！



Step3. 体制をつくろう！

学習会等の活動を充実させるため、また効率的に取り組めるよう体制を整備しましょう。
特に、活動に不慣れな組織においては、身近なところから体制づくりを進めていきましょう。

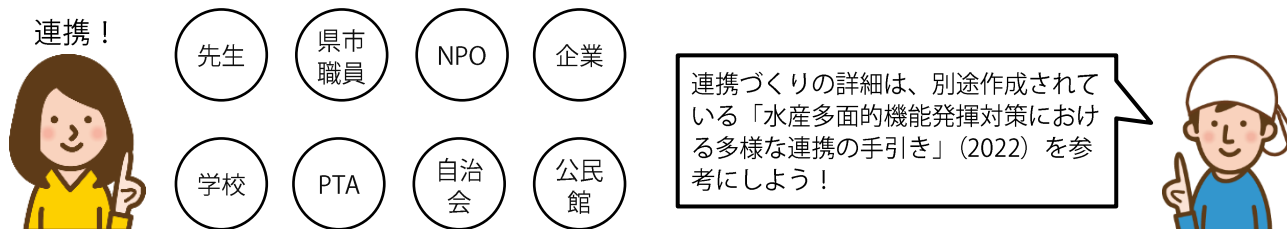
得意な人を集めよう

学習会等では、自分たちの思いを伝える必要があります。また、その思いを伝えるためのプログラムづくりが求められ、それを担う人材が必要です。こうした人材が不足している組織においては、担い手を確保する必要があります。まずは、身近な人や団体（学校の先生・OB、県や市の職員・OB、子ども会、PTA等）、付き合いのある市民団体（NPO等）や企業に協力を要請し、連携しましょう。

効率的に取り組むための体制づくり

学習会等を自分たちだけで行うには、労力を要します。参加者を募集し、集めるだけでも一苦労です。

例えば、地元の子どもたちを対象に学習会等を行うならば、学校や子ども会（自治会）、PTA、公民館などと連携しましょう。また、都市部の子どもや大人を対象にするならば、市民団体や自治体などと連携しましょう。こうした連携体制を図ることで、効率良く取り組みを進めていきましょう。



Topic2 学校、市民団体、民間研究所と連携したアマモの保全活動

熊本県南東部の天草市にある御所浦は、大小 18 の島々からなる漁業の町である。かつて、島の浅場にはアマモ場が広がっており、アオリイカの産卵場や多様な水産資源の育成場になっていた。しかし、近年、そのアマモ場がほぼ消失し、それと伴にアマモを知らない島民や子どもが増えた。

そこで、アマモ場保全を目的とする「御所浦地区壮青年部グループ」では、島民のアマモ場保全への理解と、天草の海を大切にすることを目標に、小学生を巻き込んだ保全活動を進めることにした。また、活動を効率的且つ持続的に行うために、小学校と連携し、環境学習として学校のメニューの一つに組み込んだ。さらに、市の水産研究センターや海の体験教育イベントを行う団体、アマモの研究を行う大学や民間の研究所と連携し、プログラムの充実や取り組みの効率化を図っている。



Step4. プログラムをつくろう！

目的（ねらい）・対象者（誰に）・体制（誰が伝える）が決まったら、学習会等の取組みを行うためのプログラムをつくりましょう。対象者の年齢や人数、また自分たち（体制）の能力に応じて、無理のないプログラムを考えましょう。

プログラムづくりのポイント

プログラムは、自分たちのねらいや思いについて、対象者に「関心をもってもらおう」、「理解を深めてもらおう」、そして「行動につなげてもらおう」ような組立てが望まれます。例えば、①座学で「地域の漁業や漁場環境」のことを知ってもらおう。次に、②「体験」や「観察」を通して理解を深めてもらおう。そして、③対象者にできることを考えてもらい、行動につなげてもらおう。こうした組立てで、プログラムをつくるのが望まれます。

Webサイト「ひとつみ.jp」の『資料室』に、学習活動用の「体験プログラム案」を掲載しています。是非参考にしてください！（詳しくは Topic5 参照）



「ふりかえり」の時間をつくろう

「関心をもってもらおう」や「理解を深めてもらおう」ことについては、プログラムをつくって実践すれば達成できます。しかし、③「行動につなげてもらおう」には、工夫が必要です。まずは、プログラムづくりの時に、対象者に「どのような行動をして欲しい」か、また対象者が「どのような行動ならできるか」検討しておきましょう。そして、その内容を学習会等の活動の中で効果的に伝え、プログラムの最後に「ふりかえり」の時間をつくって、対象者に行動宣言してもらったり、感想文やアンケートに記入してもらいましょう。なお、対象が保育園児などで難しい場合は、その保護者や先生を対象に行ってみましょう。

Topic3 地先の海や漁業の魅力や現状を伝え、藻場保全への理解を深める取組み

長崎市南部に位置する香焼町や伊王島町で藻場の保全活動を行う「西彼南部地区活動組織」では、小学生を対象に学習会を開催している。

学習会は、組織のメンバーである漁業者とダイビング業者が、学童保育と連携し、その施設を借りて実施する。プログラムは、①藻場やその周辺に暮らす生き物の展示と紹介、②地域の特産であるイセエビやアオリイカの漁場環境や漁業の話、③藻場の現状やその役割、またゴミ問題や組織の保全活動の話、④イセエビやアオリイカの捌き方と試食。こうしたプログラムで、地元小学生児童を対象に、地先の海やそこで暮らす水産物の魅力や現状を伝え、そして、その海を大切に、守る心を育成している。



Step5. 実行にむけて調整や準備を進めよう！

プログラムの内容に沿って、組織のメンバーや関係者（機関）の間で、役割分担を決めましょう。そして、教材や資材等の準備を進めましょう。また、参加者の募集、もしくは参加する機関（学校や子ども会等を対象とする場合）との調整を進めましょう。

まずは役割分担を決めよう！

調整や準備には労力を要します。一人に作業が集中しないように、組織のメンバーや体制づくりで協力を得ることができたメンバーの得意不得手を考慮して、各々の役割を決めましょう。

教材を準備しよう！

自分たちが伝えたいことに関心をもってもらったり、理解を深めてもらったりするには、教材の準備が必要です。「体験」や「観察」も記憶に残る大切な教材の一つです。それに加えて、例えばスライドやポスター（写真）、リーフレット、パンフレットなど座学用の教材を加えることで、自分たちのねらいをより明確に伝えることができます。パソコンやこうした教材づくりが得意な人がいたら、協力してもらいましょう。

Webサイト「ひとうみ.jp」の『資料室』に、座学用の「紙芝居」を掲載しています。是非参考、また活用してね！
(詳しくは Topic5 参照)



資材リストを作成しよう！

学習会等で必要となる資材を準備しましょう。また、準備にあたっては、事前に資材リストを作成し、チェックしながら準備を進めましょう。

タイムテーブルを作成しよう！

学習会等の開催にあたっては、時間管理が大切になります。そこで、プログラムにそってタイムテーブルを作成しましょう。また、タイムテーブルには当日の実行メンバーの役割分担も示すようにしましょう（Topic4を参照）。

参加者募集などの調整を進めよう！

学習会等の開催にあたっては、参加者を募集する必要があります。また、学校や子ども会（自治会）、PTA、公民館などと連携して行う場合は、参加人数や日時、タイムスケジュールなどの調整を行いましょう。なお、地元の子どもたちを対象に、自分たちで参加者を募集する場合は、開催案内をつくり、学校で配布してもらったり、自治会に頼んで掲示板や回覧板で案内してもらいましょう。また、都市部など地域外の市民を呼びたい場合は、県や市町村の担当者に効果的な方法を聞いてみましょう。

Topic4 タイムテーブルをつくろう！

タイムテーブルは、学習会等の調整や運営をスムーズに行う上で必要です。参加者に、空白の時間を与えないためにも、実行メンバーが自分の役割やその時間が判るような、具体的なタイムテーブルをつくるようにしましょう。

●●活動イベント タイムテーブル （見本）

開催日時：〇月〇日 〇〇時～〇〇時

実行メンバー：集合 〇〇時

参加人数：〇〇名

実行メンバー：〇〇氏、〇〇氏、〇〇氏、体験班（A班：〇〇氏、〇〇氏・・・）、試食班（A班：〇〇氏、〇〇氏・・・）

時間	プログラム	進行	体験班	試食班
9:00～	開会式 挨拶：〇〇代表	〇〇氏	準備	準備
9:10～	座学：〇〇と■●について 発表：〇〇氏、〇〇氏	↓	↓	↓
9:30～	質問	〇〇氏	サポート	
9:40～	保全活動を体験しよう！「〇〇づくり」 A班：指導 〇〇氏 サポート 体験A班 B班：指導 〇〇氏 サポート 体験B班 C班：指導 〇〇氏 サポート 体験C班	↓	↓	↓
10:30～	保全活動を体験しよう！「〇〇の設置」 A班：指導 〇〇氏 船 〇〇丸 サポート 体験A班 B班：指導 〇〇氏 船 〇〇丸 サポート 体験B班 C班：指導 〇〇氏 船 〇〇丸 サポート 体験C班	〇〇氏 ↓	↓	↓
11:30～	魚の捌き方講座 A班：指導 〇〇氏 サポート 試食A班 B班：指導 〇〇氏 サポート 試食B班 C班：指導 〇〇氏 サポート 試食C班	〇〇氏 ↓	片付け	サポート
12:00～	試食	〇〇氏 ↓	昼食	配膳
12:45～	ふりかえり（質問・行動宣言・アンケート）	↓	↓	↓
13:15～	閉会式 挨拶：〇〇理事	昼食	片付け	片付け
15:00	解散	片付け	↓	↓

Topic5 水産多面的発揮対策事業 Web サイト『ひとつみ.jp』の紹介

水産多面的機能発揮対策支援委託事業を活用して開設されているWebサイト『ひとつみ.jp』では、当事業における「全国の実績情報」や、事例発表会等の「イベント情報」。講習会や個別サポート依頼などの「サポート情報」、モニタリング手引きや発表会等資料などが公開されている「資料室」など、当事業における役立ち情報が掲載されています。

本冊子でも紹介している教育・学習活動の体験プログラム案や座学用の紙芝居なども「資料室」で公開、ダウンロードできるようになっています。是非、活用してみてください。

Webサイト『ひとつみ.jp』URL：<https://hitoumi.jp/>



Step6. 実行しよう！

学習会等を始める前に、役割分担等の最終確認を実行メンバーや関係者等と必ず実施しましょう。また、安全確認も事前にしっかり行うようにしましょう。そして、参加者がきたら、その人数を確認・記録し、実行メンバーに伝えるようにしましょう。

実行する直前に確認すること

学習会等の活動を始める前に、実行メンバーや関係者等を集め、各々の役割分担や時間配分等について最終確認を行いましょう。最終確認は、前述のタイムテーブルを用いることで、明確に行えますので、集まったメンバーや関係者等に配布し、打合せましょう。

活動前には、安全確認もしっかり行いましょう。特に、危険をともなう体験学習を行う場合は、しっかり点検しましょう。また、安全管理のためのチェックシートを事前に準備するのが望ましいです。

参加人数を把握し、周知しよう！



当日は、参加人数を必ず把握しましょう。事前に参加者が分かっている場合でも、欠席するケースが多々あります。受付を設けて参加者に名前を書いてもらったり、みんなを集めて人数を数えたり、学校等と連携する場合は、先生に人数を確認したりしましょう。また、人数を確認したら、記録し、特に班分けなどが必要な場合は、実行メンバーや関係者等に周知しましょう。



アンケートをとろう！

「Step4」で述べた「ふりかえり」時間などに、アンケートをとりましょう。また、アンケートの代わりに感想文を書いてもらうのも良いと思います。アンケートや感想文は、自分たちの活動のねらいについて、「関心をもってもらえたのか?」、「理解してもらえたのか?」が分かる内容とします。また、アンケートや口頭で、今後「どのように行動したい」と思ったか聞くようにしましょう。

●アンケートのつくり方(例)

活動のねらい	プログラム内容	アンケートの内容
①藻場・海への興味喚起	座学：藻場の役割と現状	Q 1 藻場の役割や現状について分かったか？
②藻場保全の大切さ	体験：藻場と磯焼け場の観察	Q 2 体験した保全活動が必要だと思うか？
③漁業や地魚の魅力	体験：母藻設置	Q 3 魚は美味しかったか？
④海を守る心の育成	体験：海岸清掃	Q 4 海のこと、自分が気をつけたいこと（感想）
	試食：藻場の魚と刺網漁	Q 5 漁師さんたちへのメッセージ（感想）

Step6. 反省会をして、次の計画に活かそう！

活動が終わったら、反省会をしましょう。そして、次の計画に活かしましょう。

みんなで反省会をしよう！

活動が終わったら、実行メンバーや関係者（連携メンバーや自治体職員、講師等）と一緒に、反省会を行いましょう。反省会では、①プログラムの内容、②体制、③役割分担、④関係者や参加者等との調整などについて話し合いましょう。また、アンケート調査や感想文の結果を用いて、反省会を行うのが望ましいです。



次の計画に活かそう！

話し合いの中で課題が見つかったら、その対策を検討し、次の計画に活かすことが大切です。積極的に課題を出し合い、具体的な対策を考えるようにしましょう。また、話し合いの中で出た課題や対策は記録し、確実に次の計画に活かすようにしましょう。

○ その他ポイント、留意すること

地域の組織との連携のすすめ

学習会等を開催したいが人材や経験不足のために取組みを断念している組織においては、身近にある地域の組織と一緒に取組みを始めることをお勧めします。

身近な組織として、PTA、子ども会、学童（児童館）、女性会、老人会、公民館などがあります。

こうした組織と連携することで、参加者の募集や調整が簡便になったり、施設が利用できたり、活動実行時に手を借りることもできるようになります。また、年間行事の一つとして、活動が定着する可能性もあります。地域の組織には、顔見知りの人も多いと思いますので、是非連携を検討しましょう。



学校との連携のすすめ

子どもを対象に学習会等を実施する場合は、学校との連携も検討してみましょう。学校と連携することで、上記の地域組織との連携と同じような効果が得られます。また、一過性の学習ではなく、継続性のあるプログラムで活動を展開することもできます。加えて、技術系や体験型学習を重視する高校などと連携した場合は、①保全活動の貴重な戦力になったり、②学生自らが考え保全活動を行うようになったりする効果が期待できます。以下のことに留意して、学校との連携を検討してみましょう。

- ・授業の一環として活動を行う場合は、日程、移動手段、移動を含めた時間等の細かな調整、プロ

グラムづくりを先生と行う必要があります。

- ・校長先生等が変わると、活動が継続できなくなることもあるので、引き継ぎをお願いしましょう。
- ・複数の学校を対象に取組みを検討したい場合は、教育委員会との連携も検討しましょう。

安全管理について

- ・小学生以下を対象に、体験型の学習会等を開催する場合は、保護者同伴を原則とし、子どもを見守ってもらいましょう。また、同伴性することで、保護者の啓発活動にもつながります。
- ・水の中に入ったり、乗船したりする場合は、ライフジャケットを必ず着用させましょう。また、保護者が付いていない、近くにいけない場合は、大人の監視を複数名つけるようにしましょう。
- ・川の中での体験は、浅くて流れの緩い場所を選ぶようにしましょう。そうした場所がない場合は、人工的な場所（サケふ化場の水路等）や浅い細流などを活用しましょう。
- ・体験学習を行う前には、参加者に安全指導を行うようにしましょう。
- ・危険生物に出会う・触れる可能性がある場合は、写真等を用いて注意喚起しましょう。
- ・危険性のある活動を行う際は、レクリエーション保険など傷害保険に入るようにしましょう。

メディアの呼び込み・対応について

- ・メディアへの照会は、自治体の担当者などに協力を仰ぎ、プレスリリースなど行ってもらいましょう。また、活動を継続していると、自然とメディアの方から連絡がくるときがあります。そうしたチャンスを逃さず、受け入れるようにしましょう。
- ・取材にきたメディアの方に名刺をもらうようにしましょう。そして、イベントや取材して欲しい活動を行う前に告知するようにしましょう。
- ・メディアへの対応者を決めておくようにしましょう。活動時、自由に取材をされると、その対応が煩雑になったりします。あらかじめ担当を、決めておきましょう。

Topic6 高校との連携による波及効果

兵庫県北部に位置する新温泉町を流れる岸田川は、河川延長約25.2kmの二級河川である。近年、山間部における原生林の減少等によって、河道内の土砂の堆積が著しくなっており、浮き石の減少、河床の平坦化、外来水草の増加など問題が起きている。また、生活環境の変化により、地域住民や子どもの川離れが進行し、河川環境の保全への関心が希薄化している。

そこで、「岸田川の環境を守る会」では、体験型の学習教育に重きをおいた高校と連携して河川清掃や外来水草除去の活動を展開している。また、こうした活動をきっかけに、高校の自主的な取組みとして「岸田川保全活動（アユの遡上調査・産卵床づくり・小枝魚道づくりなど）」が漁業者と一緒に進められている。



○ 役立ちサイト

- ・水産多面期機能発揮対策情報サイト『 ひとつみ.jp 』

(<https://hitoumi.jp/>)

当事業における役立ち情報が満載。「資料室」の他、「全国の実施情報」や「サポート情報」、「イベント情報」なども閲覧できます。

- ・海に学ぶ体験活動協議会『 CNAC 』

(<http://www.cnac.or.jp/index.html>)

海をテーマに砂浜や干潟、磯、藻場、漁業などの体験学習プログラム「海あそびレシピ」の閲覧や、安全管理に関する小冊子「海あそび安全講座」のダウンロードができるなど役立ち情報が満載です。

- ・海洋学習情報サイト『 LAB to CLASS 』

(<https://lab2c.net/>)

干潟やサンゴ、海洋生物、海洋汚染などをテーマとした環境プログラムが紹介されています。キーワードやカテゴリ検索ができるので便利です。

- ・ビビビ、五感全開『 高知体験学習ガイド 』

(<https://www.kochinet.ed.jp/taiken/index.html>)

環境学習プログラムの情報や安全管理に関する情報が掲載されています。川や海の環境学習プログラムもあるので、参考にしてみてください。